

✕
i 37

Kitasato Memorial Medical Library

F
イ-118

冊一 并說俗分義玄方医

490.4
Ih

No. 2101
10 i 37



富士川文庫

623

醫方玄義分俗說辨

法界因緣分

諸病之病緣分

諸病之病因分

諸病治法分

惣結分

醫法了義燈

一病緣ニ付テ治法ヲ論ゼハ

サル義ヲ明スノ論

二能死差別ノ論 九

同 七 五 三 一

第十	第九	第八	第七	第六	第五	第四	第三	第二	第一
法	法	法	法	法	法	法	法	法	法
論	論	論	論	論	論	論	論	論	論
廿六	廿五	廿四	廿二	十九	十八	十七	十六	十五	十四

執鍼講式

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
不變有無ノ義論	了義燈決着分	病相ノ義論	能緣五識ニ現ズル	病因分ニ隨流門返流	病緣ハ色心ニ渡ガ故	病緣ノ義ヲ明ス	病緣ノ義ヲ明ス	病緣ノ義ヲ明ス	病緣ノ義ヲ明ス
十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六

圖被

第一 一切穴所。心穴所。論 同
決着知

第一 血液清流根源ノ義論 廿七
鈔病相科説分

第二 玄義ニ隨縁転相ノ義論 廿九

第三 大陽陽明ノ病因ノ義論 同

第四 枝末病相ノ議 三十

第五 枝末病相ヲ明スノ議論 同

第六 大陽上向病ノ議論 同

第七 下向病ノ議論 同

第八 手足流出病 同

第九 内向ノ議論 廿二

第十 外向ノ議論 同

第十一 十四經絡薰着病 同

第十二 周身周奔病 廿三

第十三 偏固病 同

第十四 種雜ノ病相 同

第十五 圓被決着 同

圓被決着

第九 種雜ノ病相

同

第十 偏固病

同

第十一 周身周奔病

同

第十二 十四經絡薰着病

廿三

第十三 外向ノ議論

同

第十四 内向ノ議論

同

第十五 手足流出病

同

第十六 大陽上向病ノ議論

同

第十七 枝末病相ヲ明スノ議論

同

第十八 枝末病相ノ議

三十

第十九 大陽陽明ノ病因ノ義論

同

第二十 血液清流根源ノ義論

廿九

第二十一 玄義ニ隨縁転相ノ義論

同

第二十二 一切穴所。心穴所。論

同

第二十三 圓被決着

同

所設法、如
是相、性、體、
緣、果、報、
、本、末、宛、早、寄

村法曰、南、高、病
詭、此、二、皆、
、天、台、師、
三、軌、
目、
目、
目、

醫方玄義分俗說辨序分

夫一切。諸病。因緣。ヨリ。生シテ。本是。自

生ナシ。如是。觀了スレバ。治法ノ大旨ヲ。察明

スルナリ。此ノ因緣トハ。大系全ノ法門ナリ。

即チ法華經方便品ニ曰ク。如是。因。如是。緣ト。

アリ妙法トハ此ノ義也。此ノ如是トハ。眼前

當體全是ノ義也。眼前諸法ノ當體ト云ヘバ

トトハハヒロクシテ。目ノトミカクナリ

更ニ際限ナシ。ハ。漸漫トメ无边ナリ。依テ

一法。一法。テ。スル。一知。一左。

水ニ。徹中スルニ。隨フガ故ニ。乎靜ノ水相急	子ニ。轉メ種々ノ波相ヲ現ズルナリ。故ニ乎靜	轉シテ波相ヲ現スルナリ。此ノ波相ハ乎靜	ノ相ヲ忘覆スルナリ。故ニ轉相ノ義ナリ。	無曰ク。法界ノ水相ニ。因縁アリ第一ニ水因	第一ニ水縁トハ。法界ノ寒氣ナリ。其ノ寒氣	ハ。柔和水ニ徹中スレバ。柔和ノ相。轉メ水相	シ。現ゼ令ル也。故ニ柔和ノ相。轉メ水相ヲ現	セ令ルハ。寒氣ノ力用也。依テ法界ノ寒氣ハ。	皆今ルハ。寒氣ノ力用也。依テ法界ノ寒氣ハ。
-----------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

因ナリ。其ノ隨縁トハ。凡勢ノ令現縁ノ乎靜	此ノ乎靜水ニ。隨縁轉相ノ義アルガ故ニ。波	如是第一ニ義ニ波因トハ。法界ノ乎靜水ナリ。	法界ノ凡勢ハ。波相ノ令現縁ナリ。波縁ノ義	テ。波相ヲ現セ令ルハ。凡勢ノ力用ナリ。依テ	レバ。波相ヲ現セ令ルナリ。故ニ乎靜水ニ。轉シ	勢ナリ。其ノ凡勢ハ。法界ノ乎靜水ニ。徹中ス	ニ。波相ノ第一ノ縁トハ。法界ノ凡	法界ノ波相ニ。因縁アリ第一ニ波相ノ縁第一	法界ノ縁分
----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	------------------	----------------------	-------

八。法界ノ柔水ナリ。其柔和水ニ隨縁
 轉ノ義有ルガ故ニ。水因ノ義ヲ成スル也。
 其隨縁トハ。柔和水ハ寒氣ノ令現縁ノ徹中
 スルニ隨フガ故ニ。柔和ノ水相輕メ。水相ヲ
 現スル也。隨縁トワ此義也。輕相トハ金鉄ノ
 如クナル。水相ヲ現スルガ故ニ。方圓ノ器ニ
 隨フノ義ヲ忘覆スル也。輕相トハ此ノ義也。
 波相水相ハ忘覆也。故ニ因縁生ニシテ。水未
 自生ニ非ス。故ニ離縁歸本ノ義ヲ成スル。其
 離縁トハ。風勢一たび。法界ニ歸スレハ。波相

ノ忘覆消滅メ法界ノ。乎靜水ニ。歸スルナリ
 寒氣急チニ。法界ニ歸スレハ。水相ノ忘覆消
 滅メ法界ノ柔和水ニ。歸スル也。
 上未波相水相ニ約シテ。因縁ノ義理ヲ論ス
 ル。ト如是其ノ餘ノ一切諸法ニ。約シテ因縁
 ノ二義ヲ論スル。此レニ准シテ可知。如是
 森羅萬象悉ク。因縁アレハ。今諸病ヲ論スル
 ニモ。因縁ノ二義ヲ談スル。肝要ナリ故ニ
 病。病縁ヲ明。ト次章ノ所談ナリ。

諸病ノ病縁

諸病ノ病縁アリ。其ノ因縁トハ病因病

縁ノ義也。其ノ病縁ヲ明スニ。二義アリ。第一

二鬱滯縁第二ハ転発縁ナリ。第一二鬱滯縁

トハ身識所縁正境ノ寒冷湿ノ三也。其ノ

中ノ寒トハ寒氣ナリ即チ三冬猛冽ノ寒氣

ニテ殺々ニシテカ用甚ダ鋪キ氣ナリ。尤モ

恐ベキ氣ナリ。今ハ鬱滯縁トハ寒氣ハ身識

ニ徹中スレバ精流血液ヲシテ循環ヲ妨ゲ

鬱滯セシムルナリ。故ニ精流血液転メ鬱滯

七情衆方短

喜怒哀思悲

氣本草備要上

七十九

人身以氣為主

盛則強虛則衰

順則平逆則病絶

則死矣

血液ト為サシムルハ寒氣ノ力用也。依テ寒

氣ハ血液ノ鬱滯縁ナリ。次ニ冷湿ノ二氣ハ

寒氣ノ次ニ類スル氣ニシテ弱キ氣ナリ。以

冷湿ノ二氣モ鬱滯縁ノ部類ナリ。准メ可知

依テ寒冷湿ノ三正境ハ鬱滯病縁ノ義明ス

ト。如是第二ニ転発縁トハ二義アリ。第一ニ

時候ノ転発縁第二ニ七情ノ転発縁第一ニ

時候ノ転発縁トハ身識所縁正境ノ温暖暑

也。其ノ中ノ暑トハ九夏炎熱ノ儀ナリ。

此レ也。其ノ中ノ暑トハ九夏炎熱ノ儀ナリ。

喜一怒憂一懼一愛悔一欲一

氣和ル也
之氣也

七ノ氣ハ廣大ナリ。先ツ第一ニ五穀ヲシテ
實ラシムルナリ。其ノ餘ハ准シテ可知。今
論ズルニ及ハス。七ノ炎暑ノ氣身ヲ徹
中スレバ。鬱滯血液ヲシテ毒氣ヲ酪サ合メ。
病相ヲ奔セ令ムルナリ。故ニ鬱滯血液ノ毒
氣軋發シテ病相ト為サ令ルハ炎暑ノ力用
ナリ。依テ炎暑ハ鬱毒ノ軋發縁也。次ニ温暖
ノ二氣ハ暑ニ類スルノ氣ニ弱キ氣也。此
二氣モ軋發縁ノ部類也。准シテ可知。且温暖
暑ハ軋發縁ノ義。明ス。下如是。第二ニ七情ノ

二二

軋發縁トハ前ニ五穀ヲシテ正境ヲ縁スルニ
可愛ノ正境ヲ縁メ。徹中スレバ能縁ノ五穀
ヲシテ喜愛樂思ノ情欲ヲ発セ令ル也。而前
五穀ヲシテ正境ヲ縁スルニ不可愛ノ正境
前ニ五穀ヲシテ徹中スレバ怒憂悲恐驚ノ情欲
發セ令ル也。亦此ノ七情ハ筋骨ニ徹中スレ
バ鬱毒ヲ発動サセ。病相ヲ發セ令ル也。故ニ
鬱毒軋發メ。病相ト為ス。第六意。七情ノ
力用也。依テ七情ハ鬱毒ノ軋發縁也。已上三病
縁。明ス。下如是。此レハ大數ナリ。其餘ノ病縁

分 四十八
御懇
中各
中の

ハ是レニ准シテ。可知病縁トハ。病疾ヲ。コシ
 ラハル道具ナリ。
 一切諸病ノ。病因分
 ナリ。其精流血液ニ。隨縁。能縁。五。談ノ。精流血液
 ナリ。其隨縁トハ。精流血液ハ。寒氣ノ鬱滯縁
 二。隨又ガ故ニ。精流血液。轉シテ。鬱滯血液ト。
 ナルナリ。隨縁トハ。此ノ義ナリ。轉相トハ。鬱
 滯血液ハ。病因血液ナリ。故ニ精流ノ義ヲ。忘
 覆スルナリ。依テ。轉相ノ義也。病ノ。病因ト

ハ種子因本ノ義也。譬ハ一俵ノ粗種ヲ。春田
 ニ。蒔キヲロシテ。秋天ニ至テ。數百。俵ノ長ヲ
 取リ上ル也。今。此ノ。一點ノ。鬱滯血液。病因
 ト成テ。万病ヲ生シテ。終ニ生命ヲ傾ケル也。
 其ノ根本ハ。一點ノ鬱滯血液ナリ。故ニ病因ト
 名クルナリ。今。因ニハ。必。果アルハ。道理。必
 然ノ義ナリ。故ニ法華。方便品ニ。曰ク。如是果
 トアリ。今。鬱滯血液ハ。因ナリ。種々ノ病相ハ
 果ナリ。今。因ノ果ニ至ルモ。隨縁ノ義アリ。今
 其ノ隨縁トハ。鬱滯血液ハ。根本。病因。種子也。

今炎暑ノ転発ト点七情ノ転発縁ニ隨カ故
 ニ鬱滯血種々ノ毒氣ヲ豁シ種々ノ病相ヲ
 現ズル也。如是鬱滯転発ノ兩縁ト隨縁転相
 ノ。兩義ニ依テ種々ノ病相ヲ生スル也。故ニ
 一切諸病縁因ヨリ生スルト云ハ此ノ義十
 リ。是レハ発病以前ノ義ニシテ過去ノ論也。
 其ノ過去ノ縁因ニ依テ現在ノ病相ヲ現ス
 ル也。其ノ病相トハ能縁五試ニ現ズル寒熱
 疼痛ノ相ナリ。是レハ隨流門ノ現在ノ論十
 リ。以上ノ論ハ現在ヨリ過去へ向フテ病論

ヲ為スノ義ナリ。治法ノ論ハ次章也。

諸病治法分

治法ノ起ル処ハ現在ノ病相ヨリ。未來へ向
 フテ論スルノ義也。其ノ現在ノ病相ノ当體
 ニ二義アリ。第一ハ絶滅トハ疾ミ勞レテ勢
 眞ヲ失フモノハ。治法カナワザルノ義ナリ。
 第二ニ忘覆トハ。病相ノ當體ニ不變ノ徳ア
 ルノ義也。其ノ不變トハ。病則无病ト觀了ス
 ルノ義也。其ノ病則无病トハ。病相ノ當體ニ
 清流无病ノ義ヲ全フスナリ。是レハ不變門

一。現在論也。是ノ不変ノ義ヲルガ故ニ。離縁
 歸本ノ義ヲ成スルナリ。其ノ離縁歸本トハ。
 治法ノ良縁ヲ以テ。血液ヲシテ。精流セ令ル
 寸ハ。病相ノ忘覆急チニ消滅シテ。无病精流
 ノ。本然ニ歸スルナリ。此ノ離縁歸本ノ義ハ。
 不変門ノ現在ヨリ。未未ヲ眺テ論ズルノ義
 ナリ。不変ノ義明ス。如是惣結ハ。次章ノ如
 シ。

惣結分

惣結トハ。病縁分ニ。治法ハ論セサルナリ。而

〇・一・二・三・四・五・六・七・八・九・十

病因分ノ中ニ。二義アリ。第一ニハ。隨流門第
 二ニ。返流門第一ノ隨流門ニツイテハ。治法
 ヲ明カサス。第二ノ返流門ニ付テ。專ラ治法
 ヲ明ス所也。此ノ三義ハ。了義燈以下ノ各ニ
 於テ。明ス所ナリ。

醫法了義燈

序分

了義燈ノ了トハ。觀了ノ義也。義トハ。玄義分
 ノ。義理分際ノ義ナリ。燈トハ。譬也。義論函

微ナルカ故ニ。詳了シカタシ。故ニ巨燈ヲ以テ。函谷閣夜ヲ照ス如ク。玄義ヲ再論スルヲ。次章ノ所論也。

第一ハ病縁ニ付テ。治法ヲ論セサルノ。義ヲ明スノ論

玄義分ハ。病縁ニ付テ。治法ヲ論セザルニ。

義アリ。第一義ニ。能所ニ渡ルカ故ニ。第二義

ハ。色心ニ渡ルカ故ニ。其ノ第一ニ。能所ニ渡

ルカ故ニトハ。病相ハ。能縁五上ニ現メ。

所縁ノ境体ニ。渡ラヌ。故ニ能所ニ渡ル義論

ハ。治法ノ場所ニ。用也。依テ病縁ニ付テ。治法ヲ論ゼサルナリ。夫ニ付。能所差別ノ義ヲ。論スル次章ノ如シ。

第二ニ。能所差別ノ論

能所差別ヲ明スニ。二義アリ。第一義ハ。能縁

ノ五識ナリ。即チ眼耳鼻舌身ノ五根ニ。見聞

ノ五識ナリ。即チ眼耳鼻舌身ノ五根ニ。見聞

覺知ノ五識ナリ。即チ眼耳鼻舌身ノ五根ニ。見聞

義ニ。所縁ノ境体トハ。能縁五識ノ所縁正境

ノ体ヲ云フ也。第一ニ。眼識所縁正境ノ体ト

色法方体也。其ノ色法ニ三類アリ。第一ニ
 顯色第二ニ形色第三ニ空色第一ニ顯色ト
 八。青黃赤白黒ノ五色ナリ。六。竹色紫トハ。五
 色中ノ色法也。第二ニ形色トハ。長短方圓高
 低大小等也。第三ニ空色トハ。日月星辰雷電
 石火明闇雲霞等ナリ。七。眼識ノ所縁正
 境也。第二ニ耳識ノ所縁ノ正境トハ。声正境也。
 即チ言語音曲鳥声風波音等也。七。耳識
 ノ正境ナリ。第三ニ鼻識ノ所縁ノ正境トハ。香
 正境ナリ。香臭ノ義ナリ。即チ香バシク。臭ク

サシ。臊グサシ。腥グサシ。腐グサシ。六。イブリ。
 クサシ等也。是レハ鼻識ノ所縁ノ正境也。第四
 ニ舌識ノ所縁ノ正境トハ。味正境也。辛ナリ。甘
 キナリ。苦キナリ。酸キナリ。鹹キナリ。七。舌ノ味
 正境ハ。舌識ノ所縁ノ正境ナリ。第五ニ身識ノ
 縁ノ正境トハ。觸正境ナリ。四時ノ氣候。寒冷
 濕溫暖暑ナリ。六。杖衣。顔ホナリ。七。身識
 所縁ノ正境ナリ。五。身識ノ所縁ノ義。如是。上未
 所差別ノ分際ナリ。六。能所相對メ。縁スルニ
 付テ。三縁ノ義アリ。夫レハ次章ノ所談也。

冷温温暖暑ノ氣候ニ刀杖衣類等ノ親縁セサル也。色香味ノ四正境ハ親縁セサルナリ。次ニ近縁トハチカク縁スル也。サアコトシヤ。寒氣ノ敵ガ押シ寄セタエサコモラント炬燵櫓ニ由レハ寒氣ニ向ヘテ炬燵ヤクアラテ防グカ故寒氣ニ向エドモ。近縁ニ非ス。寒カラ又程ニ見テオケ雪ノ庭是レハ寒氣ノ句ナリ。寒カラ又程トアル也。ニテハマサシク雪ヲ見テ居ル姿ハアル也。親縁近縁アルナリ。然レモ次ニ見テオケト。

二...
 一...
 一...

云言語テ所ニ止ル義アル也。地ニ。地トスル義ヲカクスナリ。故ニ地上縁ノ義ハ是レナシ。エサ、ラハ雪見ニコロヲ処マテト。云句アリ。亦、口ハ及ハ雪見ノ果ハナカリケリ。是レハ雪見ニ際限ナキ姿ナリ。故ニ心。地トスル言語ノ絶スル処ナリ。地ト縁トハ中ノ義也。士農工商ニナ寒氣ヲ受ケテ病氣ヲ求ル。中ノ三縁ノ義理ヲ以テ考フマシ。如是病縁ノ論ハ。試境ニ渡ル論ニメ。治法論ニハ。非ズト心得ベシ。病相ハ能縁五試ノ上ニ有テ境。

體 = 八。渡ラサナリ、

第四 = 病縁ハ色心ニ渡ルガ故ニ。治法

論ニ。非ルノ義明ス論

玄義 = 明ス処ノ。転発縁ノ七情ハ心法ナリ。

唯哉論ニ。第八ノ阿羅弥哉ニ。善悪无起ノ三

性アリ。其中七情ハ。善悪中ノ心処ナリ。故ニ

心法ハ。无色无形ノモノナリ。病相ハ能縁五

哉 = 解テ。有色有形ノモノ也。故ニ。転発縁ノ

病論ハ。心哉 = 渡テ。有色有形ノモノ也。故ニ。治法

无移ノ心法 = 渡ルガ故ニ。病論ノ。五哉ト。无色

論ニ。非ザルナリ。能縁五哉ハ次章也。

第五 = 病因分ニ。隨流門返流門ノ二

義アルノ論

病因分ノ二門トハ。始ニ隨流門。次ニ返流門

ナリ。始ノ隨流トハ。无病身ニ。一点ノ病因血

ヲ生メ。終ニ病相ヲ發スルノ義ヲ。隨流ト云

義ナリ。俗ニ云フ。流ノ身ト云ガ如シ。无病身

ガ縁ニ隨テ。流テ。病相ヲ發スルノ義ナリ。其

ノ病縁ハ。日夜ニカワル故ニ。一々シラヌ難

シ。有ニ鬱滯。転発ト。明スナリ。能縁五哉ノ。

辺ニ約シテハ。隨緣轉相隨緣成果ノ義玄義
ニ明スガ如ク。発病以前ノ論ハ。細論尽シ難
シ。發病以前ノ過去ノ論ハ。專ノ因縁ノニ論
ノ外ニ无シト思フニ依テ過去ノ論ハ。細
論スニカラズ。現在ノ能縁五試ニ現ズル。如
ノ病相論ハ。次章ナリニ

眼耳鼻舌身

第六ニ能縁五試ニ現ズル病相ノ義論
能縁五試ニ現ズル病相トハ。凡ソ寒熱疼痛
等ノ義ナリ。其ノ寒熱トハ。第一ニハ惡寒第
二ニハ發熱ナリ。第一ノ惡寒トハ。血液ノ毒

二ニハ發熱ナリ。第一ノ惡寒トハ。血液ノ毒
氣急發シテ。氣道ヲ閉塞スル故ニ。惡寒スル
ナリ。其ノ氣道閉テ表工。鬱毒氣ヲ發散スレ
バ。大熱ヲ発スルナリ。寒熱ノニ相ハ。アルト
雖モ。毒氣ノ變作スル処ハ。鬱毒ノ一也ト。可
知。惡風ハ。惡寒ノ。輕キ。只ナリ。食ヲ相僥シテ。
常ニ立疾ミノ人モ。常ニ風ヲ恐レ。亦夕肌ニ
微熱不絶ハ。筋骨ニ。血液鬱滯ニ。熱ヲ含ガ故
也。六急ニ疼痛スルハ。血液ノ毒氣骨間ニ。筋
辺ニ。薰着メ急。発セントスル如ク。疼痛ヲ

ナスナリ。血液鬱滞ノ病根ハ。皮肉ノ間ニ。非
ス骨間ニアリ。能縁五試ノ眼耳鼻各身ニ現
スル病相ハ。何レ氏筋骨絡コリ毒氣ヲ起
メ能縁五試ヲ恣マスモナリ。依テ其ノ筋
骨經絡ノ中ノ病因ノ義ハ圓被必用ニ至テ
明カナリ了義燈決着分ハ次章也

了義燈決着分

了義燈ハ始メニ試境ノ差別ヲ明シ。次ニ色
心ノ差別ヲ明シ。次ニ隨流門ノ義ヲ明シ。中
ノ諸論ハ。无病ヨリ。病相ヲ現スル。過去ヨリ

現在マテノ道ユキノ論ナルガ如ニ。病論ニ
シテ治法論ニハ。非サルナリ。如是決着シテ。
治法論ハ。執鍼講式圓被ニアリシ

執鍼講式
序

夫レ治法ノ起ル所ハ。不変ノ徳ナリ。其ノ不
變ノ徳ヲ返流門ト名ヅクルハ。病相ノ現在
ヨリ未來ノ无病相ニ至ルノ義論也。故ニ玄
義ニ。其ノ不変ノ病相ノ當體ニ。精流无病

義ヲ全フスルノ義ナリ。此ノ現在ノ不変
 徳ニ依テ治法ヲ起シテ難縁歸本ノ未
 全快ニ及ブ也。是レハ治法ノ大旨ヲ談ス
 ル所也。其ノ不変ノ有無ヲ談スル
 第一ニ不変有無ノ議論
 不変トハ病者ノ勢真ノ義ナリ。病者ノ勢真
 疾ニ於レテ絶滅ニ及ブ者ハ治法ヲ施テモ
 詮ナシ。故ニ治法施スルカラズ。病者疾ニ疲
 レテモ勢真全スル者ハ治法ヲ施セバ速ニ
 全快ニ及也。其有無ヲ觀了スルニハ脈論ニ

テハ決シ難シ。其故ハ諸脈有ト雖モ各医モ
 是レヲ取リ分ルヲ不能。故ニ浮沈遲數ヲ以
 テ。脈ノ大要トスルナリ。此ノ義ハ各論ナリ。
 此ノ論ヲ以テ案スレバ脈論ハ治法ニ理非
 ザルナリ。依テ我所立ハ能縁ニ試ノ病相ト。
 筋骨經絡ニ病根ヲ悉ク穿鑿ノ勢真ノ有無
 ヲ決論スルガ治法ノ本ヲク処ト勘考スル
 ナリ。能縁ニ試ノ病相ハ種々アリ。圓被抄ニ
 至テ明ス也。筋骨經絡ノ病論ハ次章也。
 第二ニ經絡筋骨ノ病因ノ議論

十六

病因トハ。玄義ニ一点ノ鬱滯血ガ。病因トアリ。是ナリ。此ノ病因ハ。自己発明ナリ。医者ニ風寒暑ヨリ。病ノ起ル義ヲ明シ。亦且臟ヨリ病ノ起ル義ヲ明セモ。未ダ筋骨ヨリ病ヲ起スノ義ヲ論ズルモノ未ダ是レ非ル也。余連年鍼ヲ以テ。治法スルニ。大海ヲ測量スルガ如ク。一身中ノ筋骨ノ底ヲ探テ。発明スル也。譬ハ泉源清流スルニ。底ヲ探テ。始テ。発明スレガ為ニ。濁ル五臟ヨリ。血液清流ル。ハ水是清淨ニ。更ニ病ナシ。然ルニ寒冷ノ為ニ。經

絡中ニ。鬱滯スルガ故ニ。清転メ濁トナリ。依テ。經絡中ニ。鍼ヲ下メ。見ニ。精血流ル。ハ。豆傷ニ。鍼ヲ刺スカ。如ク。又病因血工。鍼ノ向フ。針ハ。洗テ。下ラサルナリ。病ノ浅深長短ヲ覺ル所ハ。鍼頭ニテ。經験ハ。造カナリ。脉論ニテ。ハ。定メ。難シ。依テ。鍼頭ノ治法ハ。次章也。第三ニ。細鍼頭ニ。圓頓微妙ノ徳アル。ノ。議論。圓頓トハ。圓満ノ義ナリ。頃ハ。頃速ノ義ナリ。四満トハ。一鍼ヲ以テ。萬病ヲ治スルガ故ニ。

其ノ不足ノ無キ義ナリ。頓速トハ。鍼ハ急場
 ヲ凌カ令ルナリ。藥方ノ及ブ所ニ非ス。六微
 妙トハ。一身中ニ打ツ所一切無穴所トシテ
 種々ノ治法ヲナセト也。更ニ一切無穴所モ。痕ヲ
 付ス。是レ微妙ノ義ナリ。外科道具ハ身體ニ。
 疵ヲ遺スガ故ニ。芭ダ下劣ノ療治ナリ。今鍼
 ハ不然。故ニ微妙ノ徳アリト云。モノ治法廣
 ク明スガ。四被抄ナリ。如是各器ナレ也。持人
 愚ナレハ。更ニ働キナシ。持人智恵利根ナレ
 ハ。孫悟空ノ如意金鎗棒ニモ不劣働キアリ

愚鈍死オノモノニハ。持タスヌカラズ。煩惱
 ヲ断メ。悟道発明ノ人ノ持ツ道具ナリ。其ノ
 煩惱トハ。五鈍枝ナリ。其義ハ次章ノ処談也
 第四ニ五鈍枝ノ論
 五鈍枝トハ。貪瞋痴慢疑ノ五ツ也。貪トハ。欲
 心ナリ。欲心アレバ。病者ノ貧福ヲ見テ。勢真
 ヲ見ザルナリ。故ニ藥礼ノ脈ヲ取テ。病氣ノ
 始末ヲ忘却スルナリ。依テ欲心ヲ放レテ。病
 者ノ勢真ヲ見ルヲ肝要ナリ。第二章ニ瞋トハ。
 怒ルナリ。心ニ怒ヲ起スオハ。鍼頭殺伐ナリ。

故ニ病者ノ勢真ヲ疲スナリ。依テ怒ノ心有
 ル中ハ。鍼ニ不利。第三ニ痴トハ。愚痴ノ義也。
 愚痴ノ心體ハ。濛然トノ。進退如何モシ。難キ
 不決着ノ義也。中ノ不決着ノ心起ルオハ。鍼
 頭ニ。玄妙ヲ顯シ難シ。第四ニ慢トハ。憍慢ノ
 心ナリ。中ノ憍慢トハ。法華經ニ。地上慢ト説
 リ。已レ不得トヲ。得タト思テ慢心スル義也。
 鍼モ。忽然リ。修行熟達セザルニ。我レ名人ト
 思ハ。慢心ノ甚シキナリ。己カ身ヨリ先明ヲ
 放テ。世界ヲ照ホドノ。廣徳モ無メ。慢心スル

ハ甚ダ無智ノ至リナリ。自慢ハ智慧ノ行キ
 劣リト俗言ニ等シ。生涯中ノ心ヲ放レテ。修
 行スレシ。第五ニ疑トハ。疑念ナリ。疑ハ徳ノ
 賊ナリト云リ。心ニ二心アルハ。治法ニ利
 非ズ。五鈍枝ノ煩惱トハ。如是コレハ。遮情門
 ナリ。標顯門ハ。次章ノ所談ナリ。
 第五ニ五鈍枝ノ標顯門
 標顯トハ。五鈍枝ノ表裏ノ義也。第一ニ貪欲
 ノ裏ハ。布施ノ義也。即チ物ヲ施メ。念ハザル
 ノ義也。療治ヲ施メ。礼物ヲ不念カヲ尽スノ

義ナリ。第一ニ=瞋ノ裏ハ。戒行ノ義也。己ガ心
 ノ怒ヲ治テ。柔軟慈悲ノ心ヲ起スノ義ナリ。
 如是スレハ。鍼頭穩カナリ。第三ニ=愚痴ノ裏
 ハ。智慧ナリ。智慧ヲ振フニ非シハ。治法ハ難
 シ。故ニ=医ハ将ノ如ク。病ハ敵ノ如シ。針ハ兵
 器ノ如シ。病ノ敵ヲ謀テ。鍼ノ兵器ヲ用ルカ
 如ク。治法ニ=智略ヲ廻ス。是レハ大論也。
 次下ノ章ニ=明スナリ。第四ニ=憍慢ノ裏ハ。敬
 恭ノ心ナリ。夫レニ=義アリ。第一義ハ。病者
 ノ勢真ヲ尊ブ。第二ニ=鍼ヲ主君ノ如クニ。

尊信スルノ義也。第一ニ=病者ノ勢真ヲ。尊信
 スルヲハ。輕率ノ心ヲ以テ。病者ヲ苦メ。勢真
 ヲ疲ス。片ハ。治法ニ=利非ス。故ニ=病者ノ勢真
 ヲ。主君ノ如クニ=尊信メ。治法ス。シ。鍼ヲ主
 君ノ如クスルトハ。當時六大洲ニ。有ル外科
 道具ハ。價口千分金ナリ。然レモ一能一徳ノ
 道具ナリ。今細鍼ハ。價口安キナレモ。万病
 円被ノ治法ナレハ。孫悟空ノ如意金鎗棒ノ
 如ク。尊ブヌシ。敬恭尊重メ。ツカハス。ハ治
 法ニ=利アラヌ。第五ニ=疑ノ裏ハ。一向専念ノ

義ナリ。モノ治法ニ非ニハ。病者全快ニ及
ザルナリ。モノ念慮ノ起ル所ニ。治法ニ
リ。其ノ治法ヲスルニ。形相ヲ證ズル
ノ如シ。

第六 = 鍼治ノ形相ヲ論

鍼治ノ形相ハ。鍼ヲ以テ病人ニ。向
ノ備フ義也。先ツ病人ニ。向テ。坐スル
先ツ重ススカラズ。両傍ヘ開テ。スワ
腰ヲ推シ付ケ。大盤石ノ如ク。決心メ
カラズ。胸腹ヲ突キ出シ。脊筋ノ大骨ヲ
正直

ニナシ。肩ト腰トニ。決メカヲイル
然トメ。周身ニ氣ヲ滿ルヤウニ持
メ。両方ノ肘ヲ揚ゲ。右ノ手ニ。鍼ヲ
其ノ鍼ノ持ヤウ。大指ト中指ト。持
指エボト。中指ノ次ノ二本ハ。中指
連リテ。離ルヌカラズ。如是立本ノ
サルヤウニ。ツカウヌシ。右ノ手ハ
カ故ニ。智恵門ナリ。左ノ手ハ大指
中ニ。鍼ヲ持テ。病者ノ體ニ。近
シ付メカラズ。皮膚ハ手ヲ付ルノ
心推

廿一

手ハ。坐法ト心得ヌシ。鍼ノ動カザルヲ專
 要トスルナリ。キノ手ヲ推スキハ。病者甚ダ
 難澁ナリ。輕ク空ニ浮テ。病者ノ難澁ニナラ
 サル。ヤウニ手ヲツカフヌシ。是レ空坐ノ法
 ナリ。決テ坐法ニ不_レ限。病者ニ向テ鍼ヲスル
 軽キヲ以テ專要トシ。重ク病者ニ當テ難
 澁ニ。セシメザルヲ考スヌシ。如是形相
 ヲ備テ。鍼治ヲスルニ付テ。鍼頭ヲ病者ノ身
 體ニ刺シ付ルニ就テ。議論次章ノ如シ
 第七ニ。鍼治輕中重ノ論

輕中重トハ第一ニ輕ハ。病者ノ體ニ。鍼ヲ刺
 シ付ルキハ。輕ク手ヲツカウヌシト云義也。
 其ノ輕キ分量ハ。鍼ノ重ニ程ノカヲ用テ鍼
 頭ヲ皮ノ上ニ近ツクヌシ。夫レニ付心得ア
 リ。鍼ノ番數ニ依テ。力ヲ用ルヲ不同ナリ。一
 番ノ鍼ハ。一番ノ鍼ノ重ニ程ノカヲ用ヌシ。
 五番ノ鍼ハ。五番ノ鍼ノ重ニ程ノカヲ用ヌ
 シ。其力ヲ用ルニ就テ心得アリ。一番ノ鍼ヲ
 以テ。鍼細クノ手ニ持タザルガ如ク。覺ルハ
 心意散乱ノ。治マラサルガ故也。一番ノ細鍼

テ。	切。	テ。	肉。	部。	ニ。	進。	マ。	令。	ル。	ナ。	リ。	是。	レ。	ニ。	心。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

三。	下。	ハ。	ス。	ヲ。	テ。	粘。	ガ。	得。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	。	。	。	。	。	。	。	。

此ニ強弱ノ加減
アリ心得可シ

刺付テ利アルアリ。其可ハ強クツカ
 ウベシ。モノ義ハ術治ニ至ラザレハ年シ難
 シ。故ニ必用ニ細論スベシ。骨ニ鍼ノ留ル
 非ハ。柔カニ并ヲウカウヘシ。強ク并ツカ
 エハ。鍼頭ヲ損ズルナリ。亦肉中ノ滯結中
 鍼ヲ無理ニ刺スナリ。針ノ先キ折リ取レル
 ナリ。故ニ凝ヲ刺テ。大口傳アリ。上未ハ輕中
 重ノ義如是。其鍼ヲ下スニ付テ。進否アリ共
 義ハ。次章ノ処談也。

第八ニ鍼治進否ノ義論

進否トハ。進ハス。ム。否ハ退テ甚カスルノ
 義ナリ。其進否ニ就テ。二義アリ。第一ニハ番
 數ノ進否。第二ニハ遍數ノ進否。第一ニ番數ノ
 進否トハ。病者ニ向テ。三番ノ鍼ヲ以テ治法
 スルニ。細可ハ。四番ノ鍼ヲ以テ治法スベシ。
 而四番テ細キオハ。五番ヲ以テスル也。是レ
 番數ノ進也。又四番ノ鍼ヲ以テ療治スルニ。
 針ヲトキナハ。三番ノ鍼ヲ持テ。亦三番ノ針
 モ。下リ難キナハ。二番ノ鍼ヲ以テスル是レ
 否也。モノ進否ノ中間ニ於テ。鍼ノ忘スル処

廿五

ハ時ノ宜キニ隨テ。玄妙ヲ考ベシ。又遍數ノ
 進否トハ。鍼ヲ三十本。體ニ下シ。針數少キヤ
 ウニ病者ノ思フ寸ハ。鍼數五十本ヲホシ。
 又五十本ノ鍼數ニテモ。不足ニ思フハ。八十
 本ノ鍼數ヲ打也。是遍數ノ進也。又三十本ノ
 鍼ヲ下メ。病者疲ル、寸ハ。廿本ニヒカヘル
 ナリ。是レ遍數ノ否也。コノ進否ノ中ニ於テ。
 一トハ字眼ナリ。昼夜一刹那モ忘却スルコトナカレ

玄妙アリ。上末。遍數番數ノ進否ノ中間ニ。又
 々。玄妙アリ。然レ。其玄妙ハ急ニ覺エ難クシ。

依テ進デ。誤リナカラシメシ。專トシ。退
 キ守テ。玄妙ノ的ヲ見定メテ。治法スベシ。其
 ノ玄妙ハ。次章ノ処談也。

此ノ条ハ鍼治家ノ極進物ナリ。針治ヲ行フモノハ。便更モ忽カセスルコトナカレ

第九ニ玄妙ノ義論

玄妙トハ。幽玄微妙ノ義也。即チ否ナラス

一トハ否ト進トカタヨラズカク。ヨラズ程ヨクト
 云フニテ。對々シ。忘却心々ノ自由ヲ云フナリ

進ナラス。其中間ノ甚ダ。細密ノ場也。因是
 筆頭ニテハ。昏尽シ。難シ。回々。位々。玄妙ニ至
 ラシ。修行スレハ。漸クニ至ル也。得タト

思	ハ	不	得	也	得	又	ト	思	ハ	漸	カ	ニ	修	行	ス	ル	也
依	テ	日	夜	ニ	心	ニ	懸	テ	勤	修	ス	ベ	シ	キ	ノ	場	也
大	害	ヲ	起	ス	ナ	リ	早	手	ノ	難	ト	ハ	輕	中	重	ノ	法
取	リ	直	ト	不	能	レ	ハ	也	ノ	早	手	ノ	難	ヲ	恐	ル	ハ
免	ル	ハ	ト	ヲ	專	ニ	ス	レ	バ	終	ニ	治	法	ノ	玄	妙	ヲ
得	ル	ナ	リ	其	玄	妙	ニ	テ	ハ	治	法	ハ	昏	難	キ	ガ	故
二	其	ノ	玄	妙	ニ	空	法	實	法	ノ	二	義	ア	リ	空	法	實

序	分	ヨ	リ	第	一	第	二	ノ	議	論	ハ	治	法	ノ	的	ヲ	決
ハ	次	章	也	ハ	必	用	ニ	至	テ	明	ナ	リ	講	式	ノ	決	着
ス	テ	尽	シ	難	シ	故	ニ	自	驗	窮	理	ノ	治	驗	ヲ	以	テ
ナ	リ	其	經	驗	ノ	次	第	ハ	一	病	ノ	就	テ	予	ガ	自	驗
必	用	ニ	至	テ	子	ス	ベ	シ	必	用	ハ	筆	頭	口	傳	ニ	於
穴	所	ナ	リ	時	ノ	宜	キ	ニ	隨	ト	不	隨	ト	ニ	依	テ	穴
所	無	穴	所	ノ	義	立	也	此	ノ	宜	ト	不	宜	ト	ノ	義	ハ

上未議論如是	カ具足スル上ハ。治法ヲ施スニ利アリ。故ニ	義也。如是治法ノ的ト安行状トノ三義	示ス行也。其行状トハ鍼ヲ成ノ立今働キノ	ノスワリナリ。第六章ヨリ終リ迄ハ行状ヲ	病者ニ向フ。安心ヲ示ス処ナリ。安心トハ心	談スルノ義也。第三論ヨリ第五迄ノ義論ハ。
--------	----------------------	-------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------

Kitasato Memorial Medical Library

分_{四十八} 中 御 各 部 門